

CDP2023「気候変動」で「A-」、「水セキュリティ」で「B」の評価を獲得

デンカ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：今井 俊夫）は、2024年2月6日に発表された CDP2023 のスコアにおいて、昨年に続き「気候変動」で「A-（A マイナス）」、「水セキュリティ」で「B」となる評価を獲得しました。

CDP（本部：ロンドン）は、2000年に世界の機関投資家が連携して設立した環境情報開示システムを提供する国際的な非営利団体です。世界の主要企業に対して「気候変動」「水セキュリティ（水資源保護）」「フォレスト（森林保全）」に関する質問票を送付し、各企業の環境情報開示の透明性や経営の関与等を評価した結果をスコア付けして公表しています。CDP は現在、全世界で 21,000 社以上の企業に対して、本プラットフォームを通じて環境情報の開示を推進しています。

より広範囲な環境側面に対する KPI の設定や、企業ガバナンスの高度化が求められる中、当社は昨年より引き続き「気候変動」は「A-」、「水セキュリティ」は「B」の評価を維持しました。

当社は今年度よりスタートした経営計画「Mission2030」の下、サステナビリティの追求を経営の根幹に位置付けております。次回実施される CDP2024 より、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB^{*1}）が公表した気候関連情報開示に係る新たなグローバル基準（IFRS S2^{*2}）との整合が進められる他、生物多様性への取り組みも開示対象に含まれる予定であり、当社は今後もより踏み込んだ KPI の設定や具体的なリスクと機会の深耕、企業活動が資源に与える影響を精緻に把握ならびに極小化するなどの改善を図りながら、引き続き適切な環境情報の開示に取り組みます。

デンカはこれからも、「化学の力で世界をよりよくするスペシャリストになる」というパーパスのもと、世界に誇れる化学で、人々の暮らしと社会に貢献し続けます。

以上

*1 国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）：International Sustainability Standards Board の略称。国際的な会計基準を定める IFRS 財団が、企業のサステナビリティ情報開示におけるグローバルでの基準の統一化を図るために 2021 年 11 月に発足した国際組織。

*2 IFRS S2：ISSB が定める International Financial Reporting Standards（国際財務報告基準）を構成する基準の一つ。サステナビリティ全般への要求項目を IFRS S1、そのうち気候関連の詳細な開示項目を IFRS S2 として定めている。

【報道関係者からのお問い合わせ先】

コーポレートコミュニケーション部

電話：03-5290-5511